

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

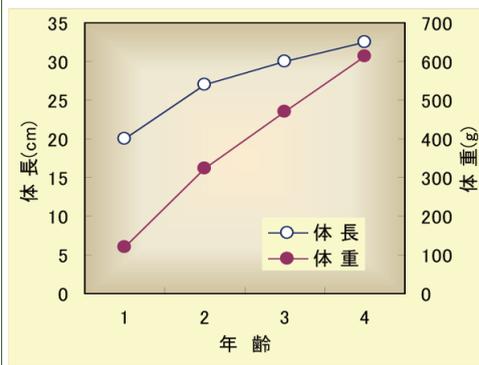
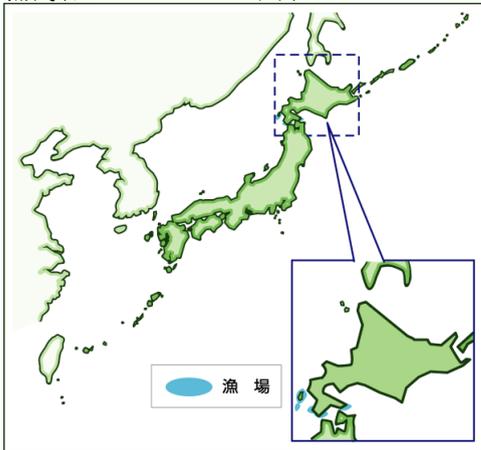
系群名 道南系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
 成熟開始年齢: 1歳の終わり頃(満2歳直前)
 産卵期・産卵場: 産卵期は11~12月、産卵場は北海道渡島半島西岸および奥尻島沿岸の岩礁域
 索餌期・索餌場: 正確な索餌場は不明、分布域は、北海道渡島半島西岸~本州北部日本海および噴火湾~本州北部太平洋
 食性: 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食、岩礁周辺で定着生活に移行後は様々な種類の動物を捕食
 捕食者: 不明

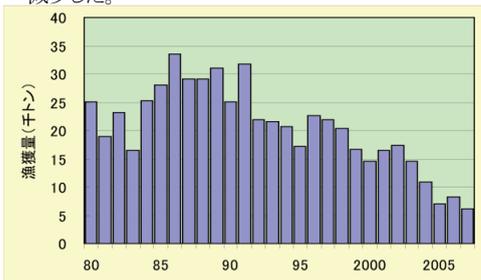


漁業の特徴

ホッケ道南系群は、当該海域の沿岸漁業(本州日本海では沖合底びき網漁業を含む)における主たる漁獲対象魚種のひとつである。主に刺し網、定置網、底建網、まき網、釣り、簗などではほぼ通年漁獲され、特に春季の索餌期と秋季の産卵期に漁獲量が増加する。

漁獲の動向

本系群の漁獲量は1980年代後半に30,000トン前後の高い値を示した後、1992年以降20,000トン前後まで低下し、2000年代に入っても減少傾向は続いた。2006年には8,171トンと若干増加したものの、2007年には6,108トンと再び減少した。

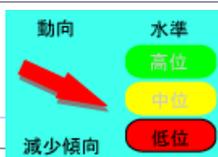


資源評価法

本系群のホッケの漁獲物は、そのほとんどが1歳と2歳で、漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析による資源量の推定に適していない。また、漁獲の大半は定置網や刺し網などの沿岸漁業によるものであり、CPUEなど漁獲量以外の資源量の指標を得ることが困難である。そこで、漁獲量の変化から資源の動向を判断した。

資源状態

本海域における過去33年間(1975~2007年)の漁獲量の平均値を50とし、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定した。2007年の漁獲量は6,108トンで15となったため、資源水準は低位と判断した。また、過去5年間(2003~2007年)の漁獲量は、減少傾向が認められたため、動向は減少と判断した。



管理方針

漁獲量の変動が資源の動向を反映すると仮定し、過去33年間の漁獲量の平均値から資源水準を判断した場合、2000年代の大半が低水準であると考えられる。近年全ての海域において漁獲量の減少が続いており、本系群の資源量の低下の可能性も考えられる。そのため、近年の漁獲量の減少率を考慮して、ABClimitは、過去3年間の平均漁獲量(Cave3-yr)に0.8を乗じて算出した。ABCtargetは、さらに0.8を乗じた漁獲量とした。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	5,700トン	0.8Cave3-yr	—	—
ABCtarget	4,500トン	0.8・0.8Cave3-yr	—	—

資源評価のまとめ

- ・ 漁獲物の年齢幅がせまく、コホート解析が困難
- ・ CPUEを得ることが困難であるため、近年の漁獲量から資源評価を実施
- ・ 過去33年間の漁獲量の推移から資源の水準を、また過去5年間の漁獲量の変化から動向を判断
- ・ 1990年代以降、資源水準が低い状態にあり、2002年以降さらに資源水準は低下していると推定

- 近年全ての海域で漁獲量の減少傾向が見られることから、資源量は低下していると考えられる

管理方策のまとめ

- 漁獲量の減少傾向を考慮し、漁獲圧の低減を検討する必要がある
-